

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地
国立療養所 奄美和光園
電話 (0997) 52-6311 FAX (0997) 53-6230

令和4年2月1日
(2022)

第124号

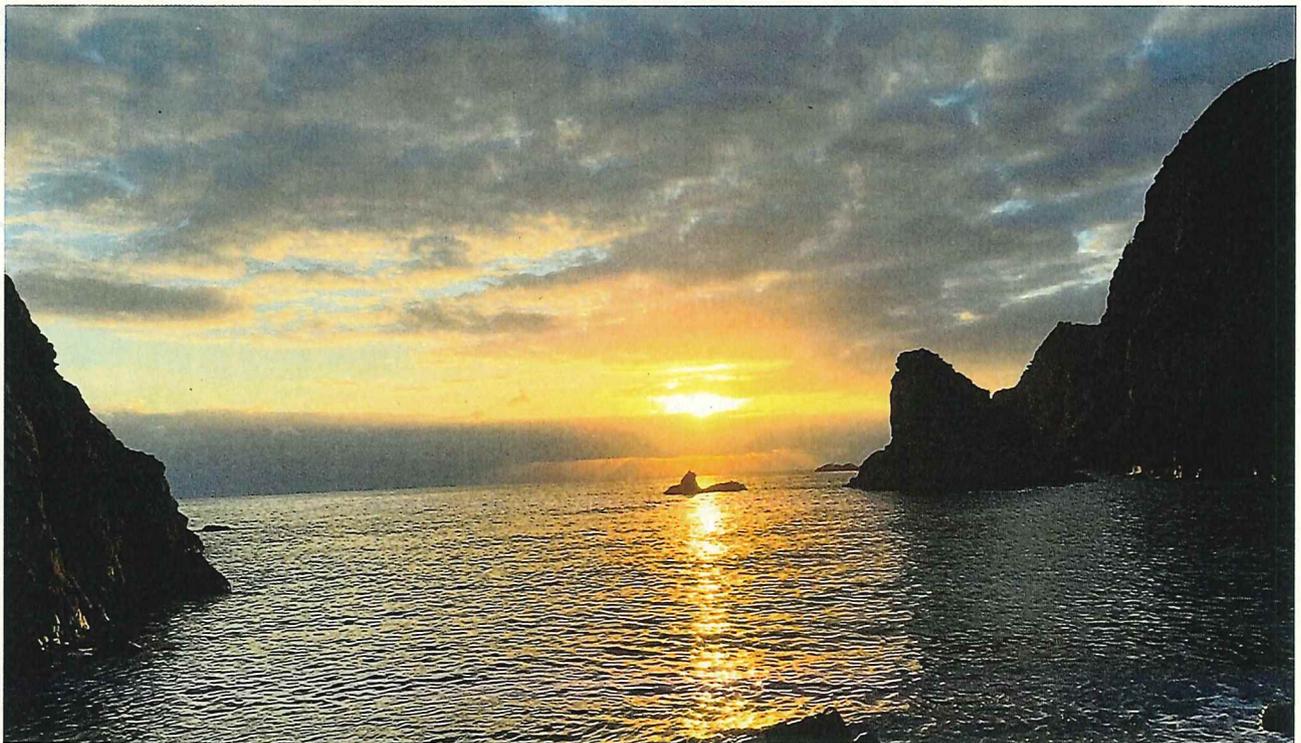


■表紙	1
■年頭に当たって	2
■令和3年度合同慰霊祭	3
■緋寒桜の咲く季節	4～5
■和光園の笑顔がこぼれるクリスマス	6～7

■ふるさとお楽しみ便	8
■永年勤続表彰	9～10
■奄美和光園交流会館(歴史資料館)からのお知らせ	10
■NST News Letter	11
■奄美和光園の歴史	12～13
■診療統計・人事異動・和光園日誌・編集後記	14

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



ホノホシ海岸の初日の出

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園

園長 加納 達雄

明けましておめでとうございます。令和四年の幕が開き、新たな気持ちで新年を迎えられたことだと思います。元日の奄美大島は晴天で、温かい陽光が差し込んでいました。園内は爽やかな風と共に凜とした清々しい空気に満ちあふれ、新年に相応しい雰囲気となりました。今年こそ普通の日常が戻り、静かに暮らせる穏やかな年になって欲しいものです。コロナに関しては、原因も結果も分かっているワクチン接種や徹底した予防対策も実施されていますがその間隙を突いてコロナウイルスに罹患する例が絶えません。昨年までは、感染の流行を押し寄せる波に例えて第1波から第5波まで数えられてきました。しかし海上の波は天気予報でわかりますし、実際の押し寄せる様子は目で確認できますが、コロナの流行波は前もって目視できず、その大きさと速さは後出しの事実となります。園では、前もっての予測はできない事を前提にしかも園内での発生はゼロでなければならないと考え、可能な限り防波堤を高くし厳重な感染対策を実施してきました。幸いにして、園内での発生はゼロで推移してきました。これも入所者の皆様のご理解とご協力、職員の皆さんの責任ある行動のお陰だと思っています。第3回目のワクチン接種や罹患後の有効な経口治療薬の使用も見えてきました。コロナに左右されない社会に戻るまでもう少しだと信じ、みんなで力を合わせて耐え抜きましょう。

和光園では、これまで見かけ上静かな生活が続いて来ましたが、奄美大島でも感染者の発生があり、その度に職員の身近にも

ウイルスが忍び寄っていると考えてきました。このため、合同慰霊祭を除いて園内の恒例行事は全て中止とし、園外へのレクリエーション大会やショッピング等での外出も自粛してきました。この間にも入所者の高齢化は待たなしで進んでいます。身体の内もますます利かなくなってきました。今までの日常生活を思い出すことも難しい程の長い時間が経過したかも知れないと危惧しています。奄美大島は昨年世界自然遺産に登録されましたが、島の自然は入所者の皆さんにとって特別なものではなく、生まれた時からそこにある当たり前前の環境でした。入所者の皆さんには、いの一番にこの環境の中で自然に振る舞える楽しい時間を持っていただきたいものです。

ところで、年が明けて奄美大島では想像を超える感染爆発の気配がしています。年末からの気の緩みと本土との往来者が増えた結果のようです。災害に際しては、想像を超える規模でさえ想定しておかなくてはならないのですが、爆発の規模が奄美市の保健・医療・行政の対応能力を超えないことを祈るばかりです。園内でも濃厚接触となった職員の中にPCR陽性者が発生する事態となっています。奄美大島と和光園では今年もコロナ騒動で新しい年が始まっています。結局、今年も一年を見通した展望を書くことは難しいようです。夢を語ることもはばかられます。コロナ騒動が無事終息し、誰とでも身近で接することのできる日が来ることを信じ、窮屈ですが辛抱強く日々を過ごすことにしたいと思います。今年中にコロナウイルスに対する安全宣言が出されるかどうかは予断を許しませんが、療養所に関係する全ての皆様、職員、和光をお読みの皆様が平和で安寧な、健康で暮らせる一年となることを祈ります。

令和4年1月10日執筆

令和3年度 合同慰霊祭

令和3年度合同慰霊祭が11月11日に講堂にて執り行われ、入所者、職員合わせて57名が参列しました。

今年も昨年に引き続き、園内関係者のみの出席とし、マスク着用、手指消毒の徹底、十分な換気といった感染対策をとったうえでの開催となりました。

式典が始まると、最初に、参列者が昨年の合同慰霊祭以降に亡くなられた2名を含む398柱の御霊に対して黙祷をささげました。

次に、慰霊の言葉として加納園長より「全ての御霊のご冥福を心よりお祈り申し上げる。コロナウイルスの感染拡大によって、差別・偏見は未だに起こりうる日本社会であり、病を理由とする偏見・差別の払拭は職員一人ひとりに強く求められている。入所者の静かな暮らしを護るべく職員一同なお一層研鑽を積むことを改めてお誓い申し上げます」と挨拶及び今後の抱負が語られました。

次に、遺族者代表の言葉として「根強い偏見が完全になくすることが遺族の切なる

願いであり、誰もが何の隔たりもなく安心してその人らしく過ごしていける社会になってほしい」といった希望が綴られた文章を代読しました。

挨拶が終わると、園長、幹部職員、入所者、職員の順番で中央の祭壇に向かって献花が行われました。入所者はほとんどが車いすでの献花でしたが、それぞれが祭壇に祈りを捧げていました。その後、納骨堂へ移動し、御前に手を合わせて各自焼香を行い、合同慰霊祭は終了しました。

現在、入所者は18名となり、平均年齢は87.1歳となりました、昨年からの全ての園内行事の中止が続いており、再開の見通しがたたない状況です。そうした中で、合同慰霊祭だけは開催したいという入所者や園長の強い思いの中、昨年に引き続き開催できたことは、故人への哀悼の意を表する場を入所者に提供できたという面で大変良かったと思っております。

福祉室 上脇田 勝教





緋寒桜の咲く季節

ここ奄美では、新緑の山肌に色鮮やかなピンクの緋寒桜とメジロが一足先に春の訪れを知らせてくれます。春になると、私にとって看護学生時代から長い間お世話になった国立病院での看護師人生にピリオドを打つ日を迎えます。

「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を支えに、赴任先で悪戦苦闘しながら今日まで続けることができました。転勤するたびに人生は思い通りにならないと悩むこともありましたが、たくさんの方と出会えたことが財産です。

初めて看護師長になった頃、PHS（携帯電話）が鳴るたびにドキドキし「何か失敗したかな。」と不安で動揺して

いると、スタッフから「師長さん大丈夫ですか。何とかありますよ。」と励まされたことも今では懐かしい思い出です。この頃からいつも周りのみんなに助けられる日々でした。そんな自分が、

『いよいよPHSから解放される瞬間・・・』
『お世話になった奄美和光園を去るその日・・・』

幾度となくこの光景を一人で想像しています。先輩方も感じたであろう最後の瞬間が、安堵感なのか寂しさなのか、感傷的な気分に浸っています。

長年看護に携わりたくさんの経験をさせてもらいましたが、この地を訪れるまで知らずにいた国立療養所での深い歴史と入所



園内に生息する
ヒカゲヘゴ

者の暮らし・・・初めて知ることばかりで簡単には語れません。

「東洋のガラパゴス」ともいわれ独自の文化を育んできた奄美は、昨年世界自然遺産にも登録され貴重な動植物が生息する魅力的な土地で大好きです。

当園は離島で小規模施設ではあり**チーム力や絆（結）、人としての優しさ**があふれています。入所者のみなさんと歴史の一コマに加えていただき、同じ時間を共有できたことに心から感謝しています。運命の導くままに奄美の地で過ごした3年間はとても貴重で、私自身の人生観も大きく変わったことは間違いありません。

人生100年時代。どんな時も人生を楽しみたいものです♡

今後は、自分自身をアップデートさせ次のステージで挑戦できる何かを見つけたいとわくわくしています。笑顔がいっぱい、幸せな時間を一緒に過ごしたみなさん、大変お世話になりました。奄美での素敵なご縁に感謝しております。有難うございました。

総看護師長 鮫島 明子



★ 仲間は宝です ★



(注：撮影時のみマスクを外しています)

和光園の笑顔がこぼれるクリスマス

12月は、島のあちらこちらでイルミネーションやクリスマスツリーが飾られており、ここ和光園にもクリスマスイルミネーションが灯されます。キラキラと色とりどりに輝く光たちは、静かに暮れてゆく園内を明るく照らし、観るものの心も温めてくれます。今年、総看護師長の提案で、一般舎の入所者みなさんが暖かい部屋の中からも見ることができるようにと、舎の近くや庭先などにもイルミネーションを飾りました。「嬉しくて、障子を開けたまま眠ったよ。」と、入所者のみなさんにも喜んでいただきました。

不自由者棟のクリスマス会では、大きなプレゼントボックスが2つ用意されており、プレゼントのリボンを入所者が『3・2・1』の合図で引っ張ると、なんと！その中からサンタクロースに扮した園長と、サンタレディに扮した総看護師長が登場するというビッグなサプライズが！！入所者のみなさんからは大きな歓声が上がり、笑顔

がこぼれました。この日のために練習を重ねた職員のオカリナ演奏や踊りなどで、楽しいひと時を過ごせました。一般舎では、園長サンタ一行がそれぞれの舎を訪れて歌やハンドベルの演奏を披露。ユニークな相撲ダンサーズは今年も健在です。プレゼントボックスにかけられた毛糸のリボンを、園長サンタと入所者が一緒に引っ張れば、箱が四方に開き、中からプレゼントがあらわれる仕掛けが！私達も入所者のみなさんの笑顔という最高のプレゼントに癒されたクリスマス会でした。

来年も、一緒にクリスマスを過ごすことができますようにと、星に願いを。

看護サービス委員長

治療棟看護師長 今里 憲太郎



サンタ&サンタレディからプレゼント



相撲ダンサーズ 健在!



幸せを呼ぶハンドベルの音色♪



毛糸のリボンを
引っ張ると、
箱がパカッと開いて
プレゼントが・・・



はい、はい♪ きぼりよ～



サンタさん、ありがとう!

来年も一緒にね～♡



ふるさとお楽しみ便



令和3年12月24日(金)、毎年恒例のふるさとお楽しみ便贈呈式が自治会事務所に Rowe 行われました。

ふるさとお楽しみ便とは、鹿児島県より全入所者に対して、毎年12月に県産品の詰め合わせが贈られるもので、1995年に始まり今年で27回目となります。

初めに、園内放送で全入所者に対して、塩田県知事の思いやりのある温かいお言葉を、鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課の亀之園課長より代読していただきました。続いて、園に届いたふるさとお楽しみ便を入所者代表が亀之園課長より受け取りました。

その後、入所者代表と出席者それぞれが言葉を交わして贈呈式は終了しました。入所者代表は、少し緊張したような表情でありましたが、言葉を交わす際には、時折笑顔も見られておりました。

お楽しみ便の中身については、県の方が皆様の声を取り入れ、工夫を凝らしたものを厳選いただき、充実した内容となりました。入所者の方々も毎年、年の瀬を感じる贈り物を楽しみにしているようです。

昨年以来、県主催の行事はもちろん園主催の行事もコロナ禍により軒並み中止が続くなか、この贈呈式は開催されましたが、来年こそは世の中が正常なものとなり、すべての行事が当たり前のように開催できるようになることを願っております。

最後になりますが、このような心のこもった贈り物を毎年届けてくださる鹿児島県の皆様に感謝申し上げます。

福祉室長 上脇田 勝教





30年永年勤続表彰をいただきました。この30年の間に延べ9施設で勤務させていただき多くの方々にお世話になり、この国立療養所奄美和光園で30年を表彰していただきました。40年表彰ができるか分

かりませんが、定年も延びていますので、40年を目指して精進していきたいと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

庶務班長 岡部 達枝

この度は、30年永年勤続表彰を頂き誠にありがとうございます。この日を迎える事が出来るのも入所者の方々や職員の方々の暖かい支えがあったからだと思えます。

私は昭和61年、奄美和光園に賃金職員として採用をさせて頂きました。その当時は入所者の方も100名以上居られました。あれから、30年の月日が経つと園の面影も大分変わってきて何か寂しい感じがいたし

ます。

これからも、定年を迎えるまで奄美和光園の入所者の方々の力になれるように頑張っていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

福祉室 有馬 孝

この度は、30年永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございます。長年勤めてこられたのも入所者の皆様をはじめ職員の皆様に支えられたお陰だと心より感謝申し上げます。

昭和61年に22才で入職し、賃金職員として給食に配属、その後福祉作業班に配属されました。平成4年に職員に採用となり不自由者棟、福祉作業班、洗濯場そして三度目の福祉作業班へ配属になり現在に至ります。和光園で働き36年が経ちました。

入職したころは入所者の皆様も若く元気な方が多く、今では考えられないですが一緒に酒を酌み交わしたり、作業を行ったり、時には怒られる事もありました。楽しい思い出も悲しい別れも経験してきました。

残り数年ですがこれからも入所者の皆様のお役に立てるよう努めて参ります。今後とも宜しく願い致します。

福祉室作業班 當島 悟史

この度は、30年永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございます。長年勤めてこられたのも入所者の皆様をはじめ今まで出会った上司、同僚、職場の皆様を支えられたお陰だと心より感謝申し上げます。

平成3年8月に南九州病院で採用になり、初めての鹿児島県、初めての一人暮らしに不安でいっぱいだったことを思い出します。4回目の転勤で奄美和光園に赴任することになった時も初めての離島で不安だった私

に入所者の皆様や職員の方々が優しく声をかけてくださり、すぐに不安は無くなりました。そして今回2度目の和光園勤務で30年を迎えることが出来たこと大変嬉しく思います。

これからも人との縁や絆を大切に職務に励んでいきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

栄養士 當島 裕美

このたびは、20年永年勤続表彰をいただき、誠にありがとうございます。このような表彰の機会をいただいたことは、一重に入所者の皆さま、職場の皆さまに、ときには厳しく、ときには優しく支えていただいたおかげだと、心より感謝申し上げます。

2000年に地元の国立療養所西別府病院に入職、あっという間に20年が過ぎた気がしています。まだまだ未熟な部分ばかり

ではありますが、これからも入所者の皆さんが、心安らかに、心豊かに過ごされますよう「いま私たちにできることは何か」ということを常に自問しながら、精一杯尽くしていきたいと思っております。ありがとうございました。

治療棟 今里 憲太郎

奄美和光園交流会館 (歴史資料館) からのお知らせ

当館は令和2年8月3日に開館しましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止のため休館しており、現在、ホームページからの情報発信を進めています。右記のQRコードからアクセスできますので、ご視聴いただければ幸いです。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫

奄美和光園ホームページ
交流会館コーナー



YouTube



NST News Letter

No.20

皆さま、いかがお過ごしですか。楽しくお正月を過ごされ、「正月太りが、、、」ということになってはいませんか。

今回は、体重のお話をさせていただきます。多職種で構成される「栄養サポートチーム」では、入所者の皆さまの年2回の定期検診に併せ3ヶ月毎に**栄養スクリーニング**と摂食嚥下機能評価を行います。ところで、スクリーニングとは何でしょう。スクリーンとは、土・砂・穀物などの選り分けに用いる粗い篩（ふるい）を表すことばです。すなわち、栄養不良を見つけるために篩わけているのです。では、実際に何を診ていると思われますか？体重の増減やお食事の摂取状況、気になる消化器症状、むくみ、血液検査の値（コナットスコア）などです。なかでも体重は有用なヒントとなっています。和光園では、実際に何年も体重が変わらない方がいらっしゃいますが、そのような方が急に「痩せた」、「太った」

というのは、重要な身体からのサインなのです。

前号の西島理学療法士のインボディのお話にありました、人の身体は体水分と筋肉や骨（ミネラル）と体脂肪でできているため、体重の値だけでなく、**どの成分が増減したのか**を推察し、担当看護師や担当医に相談をします。それにより、ごはんの量が変更になる、小さな飲料（栄養補助食品）などが追加になる、お食事の内容が少し変化したり、お水を飲む量やお薬が変更になったりします。（詳細をご希望の方はインボディの体成分分析検査をお勧めします）ですから、検診では是非とも体重計測にご協力のうえ、ご自身も値に興味を持っていただきたいと思います。また、可能な限り入浴後や食前などの**同じ条件**で測定してください。

栄養係長 青堀 尚子

身体を構成する4つの成分

In Body 公式ホームページより一部引用

体水分



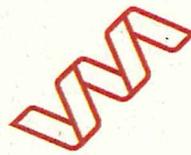
身体を構成する成分の中で一番多いのです

体脂肪



多すぎても少なすぎてもいけないのです

タンパク質



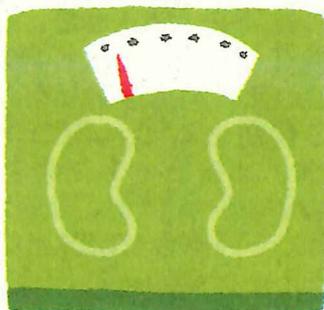
体水分と共に**筋肉**の主な成分

ミネラル



割合が少ないけれど、**骨**を構成し、血液中に溶け込んだりして働きます

同じ条件で体重を図りましょう！



栄養スクリーニング *イメージ



一 奄美和光園の歴史 一

(8) 第11代瀧澤園長、らい予防法(S28)廃止、第12代宮城園長～第14代前川園長

瀧澤園長の時代(S63～H10)には、入所者が県立病院へ入院できるようになった¹。昭和28(1953)年に施行された「らい予防法」が廃止になったのは、平成8(1996)年4月1日であり、瀧澤園長の時代である。平成13(2001)年5月11日のハンセン病違憲国家賠償訴訟 熊本地裁判決では、「・・・遅くとも昭和35(1960)年以降においては、すべての入所者及びハンセン病患者について隔離の必要性が失われたというべきである...。(後略)」とされている^{2,3}。明治40(1907)年に公布された「癩予防ニ関スル件」から89年、あまりにも遅い「らい予防法」の廃止であった。瀧澤園長は、「和光園退官にあたり⁴」で「(前略) 県立病院に入院治療ができるなどは夢のようです。真山さん⁵も有菌さん⁶も一生懸命努力されましたが、当時は外来の受診も容易ではなかった。私の時代にできたのは、時代が大きく変わったことによるのだと思います。(後略)」と述べている。

瀧澤園長が歴代2番目10年間の園長職を務め定年退職⁷した後、平成10年4月1日に宮城茂樹先生が第12代園長に就任した。その後、平成15年4月1日に、第13代園長に佐藤紘二先生が就任した。

在任期間
昭和63年4月1日
平成10年3月31日



11代 瀧澤英夫

在任期間
平成10年4月1日
平成15年3月31日



12代 宮城茂樹

在任期間
平成15年4月1日
平成17年3月31日



13代 佐藤紘二

在任期間
平成17年4月1日
平成20年3月31日



14代 前川嘉洋

平成16(2004)年4月18日、和光園内で「ふれあい和光塾」が開講したのは、佐藤園長の時代である。「ふれあい和光塾」とは、和光園入所者自治会と奄美市教育委員

会の主催で、入所者と地域の親子が1年間、1区画13㎡の畑で農作業を楽しみながら交流を深める全国初の試みであった⁸。和光塾の畑の場所は、和光園正門から入り、外来管理棟、病棟、不自由者棟脇の川沿いの道路を通過して、更に一般舎区域の中を通った和光園の一番奥に位置している。開講式の挨拶で、塾長の入所者自治会副会長は、「かつてハンセン病療養所は、子供は行ってはいけない所だった。ふれあい塾が始まり世の中が変わったことを実感している。立派な実りを見る塾にして欲しい。」と地域住民との交流発展に大きな期待を寄せていた⁹。第1回目は、奄美市内の8家族32人でスタートしており、16年経過した現在も継続されている。

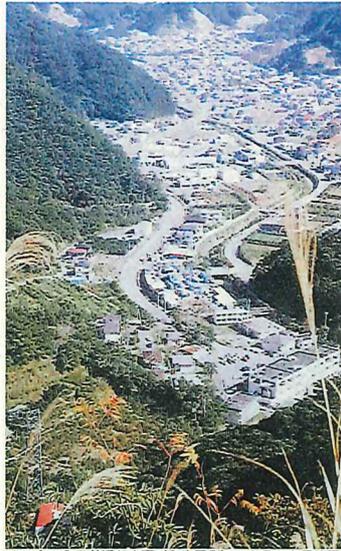
佐藤園長が定年退職¹⁰した後、平成17年4月1日に前川嘉洋先生が第14代園長に就任した。平成17年12月25日、和光トンネルが開通したのは、前川園長の時代である。和光トンネルについては、遡ること9年前の平成8(1996)年4月15日、平田名瀬市長、徳永都市計画課長らが来園し、第11代瀧澤園長及び川口事務長にその必要性、及び幹線道路としての役割を持つ可能性が高いこと、平成10(1998)年に県から国へ調査費の予算化の申請を行うこと等について説明が行われた¹¹。それに対して、その後、和光園当局は関係各方面へ、和光トンネルが和光園敷地内を縦断することがないように、静かな療養地区を守りたい旨の要望書を出している¹²。

平成12(2000)年には国道五十八号線バイパス道路がすでに完成しており、広報誌和光 第39号、平成12(2000)年2月1日には、以下のように記されている。和光トンネル工事に関する奄美市からの説明から4年後、不安は期待へと大きく変化した。

開園以来、全入園者、職員の夢であった和光トンネルも、年内の着工の見込みとなった。完成すれば和光園は一挙に交通の要所となり、町の中心までわずか29kmとなる。そして県立病院までの距離は9kmから3kmに短縮され、委託治療の面でも好都合な状況となると思われる。

また、区画整理に伴って、町名も変更される予定で、和光園を含む有屋地区は、

地域住民アンケート調査第一位の「和光町」へと変更される。これで名実共に地域に密着した「和光園」になり、園の将来にとってもよりよい環境になってきたと考える。



トンネル入口付近部山頂（和光園側）から見た有屋地区
左側がバイパス道路、右下に外来治療管理棟

広報誌 和光 第39号、平成12(2000)年2月1日 P1、写真 和光トンネル、年内着工へ



広報誌 和光 第46号、平成13(2001)年11月1日 P1、和光トンネル工事中写真 発展する「和光町」



広報誌 和光 第51号、平成15(2003)年2月1日 P8、姿を現す和光トンネル 写真

平成13年4月28日、有屋町の一部が和光町へ変更され¹³、平成17(2005)年12月25日、和光トンネル1820m¹⁴は園内職員宿舍地区を通して開通した。現在、和光トンネルの脇には未感染児保育(育葉寮)跡地が

あり、道路となっている場所は昔小笠原先生が住んでいた宿舍があった場所の近くである^{15 16}。現在、国道五十八号線と和光バイパスには、奄美市中心地から奄美空港方面へ毎日多くの車がひっきりなしに走っている。和光バイパスは、期待通り奄美大島における幹線道路としての役を担っており、和光園に対してもより良い環境を提供している。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫



S29年頃 未感染児保育所・育葉寮

- 1 行幸啓及び創立60周年記念誌—最近10年のあゆみ—、平成18年12月発行、P53
- 2 “ハンセン病問題に関する検証会議最終報告書”、2005年3月、財団法人日弁連法務研究財団、P3
- 3 “開かれた扉—ハンセン病裁判を闘った人たち”、2003、年5月11日、ハンセン病違憲国賠訴訟弁護団、P292
- 4 行幸啓及び創立60周年記念誌—最近10年のあゆみ—、平成18年12月発行、P53
- 5 奄美和光園第9代園長 真山 旭 (在任 S51~S59)
- 6 奄美和光園第10代園長 有蘭秀夫 (在任 S59~S63)
- 7 広報誌 和光 第32号、平成10(1998)年5月1日、P1
- 8 広報誌 和光 第56号、平成16(2004)年5月1日、P4
- 9 広報誌 和光 第56号、平成16(2004)年5月1日、P4
- 10 広報誌 和光 第60号、平成17(2005)年5月1日、P12
- 11 広報誌 和光 第25号、平成8(1996)年8月1日、P2
- 12 広報誌 和光 第26号、平成8(1996)年12月1日、P6
- 13 広報誌 和光 第44号、平成13(2001)年5月1日、P8
- 14 広報誌 和光 第63号、平成18(2006)年2月1日、P3
- 15 創立40周年記念誌 昭和58年4月5日、P163, 164
- 16 広報誌 和光 第46号、平成13(2001)年11月1日、P1

令和3年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	延患者数(人)
11月	112	302	414	31.8	13	69	7	0
12月	94	294	388	32.3	12	67	7	0
1月	72	225	297	24.8	12	52	4	0

生物学的製剤治療 2名
 入院加療を必要とする重症患者なし。
 感染対策として予約数を調整しているため、1月はとくに患者数が減少している。

人事異動

(令和3年11月1日～令和4年1月31日)

R 3. 11. 1	竹下 智美	看護師	復職 (育児休業)
	金井 瞳	看護師	復職 (育児休業)
R 3. 12. 1	今里 百合子	看護師	復職 (育児休業)
	緒方 亜希	看護師	復職 (育児休業)
R 3. 12. 31	山田 百合子	准看護師	退職
	肥後 加奈美	看護師 (臨時的任用職員)	退職
	宝村 優希	事務補佐員 (非常勤)	退職
R 4. 1. 1	肥後 加奈美	看護師	採用 (臨時的任用職員より)
R 4. 1. 31	福永 善一郎	歯科技工士	定年退職

和光園日誌

(令和3年11月1日～令和4年1月31日)

- R 3. 11. 4 災害訓練
- 11. 11 合同慰霊祭
- 11. 12~13 ハンセン病コ・メディカル学術集会
- 11. 14 停電作業 (自家用電気工作物の定期点検)
- 11. 25・30 インフルエンザワクチン接種
- 11. 30 「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」オンライン視聴
- 12. 6 クリスマスイルミネーション設置・点灯
- 12. 7・8 職員特別健康診断
- 12. 21 クリスマス会
- 12. 23 NHO九州グループ来園
- 12. 24 ふるさとお楽しみ便贈呈式
- 12. 28 仕事納め式
- R 4. 1. 4 仕事始め式
- 1. 13 永年勤続表彰
- 1. 28 さくらライトアップ
- 1. 19~2. 25 新型コロナウイルスワクチン接種 (3回目)

※R 4. 1. 12~13に予定されていましたが病院機能評価受審は新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期

編集後記

春の気配を感じるこの頃です。1月中は気温の低い日があったとはいえ九州本土に比べると冷え方は緩いはずなのに、寒いと感じる事が少なくなかったのは体が慣れたせいでしょうか。

とはいえ雨の多い時期も過ぎ、過ごしやすい季節になった感があります。奄美ならではの野鳥を見かける事も多くなりました。

4月には退職を含め人事異動がありますが、どうなるのか期待と不安と入り混じった思いです。新しいメンバーになっても頑張っていきましょう。

編集委員 田中 信

